

キャッチコピーの検討について

キャッチコピー

犬山三景 水景・城景・緑景

※日本ライン観光の再発見・水がはじまるところ・水が育む城下町と緑の自然

基本理念

犬山らしさを磨き、ずっといたくなる、みんなでつくる・みんなのための観光

■日本ラインとは？

岐阜県南部、木曽川中流にある渓谷のことである。木曽川と支流の飛騨川の合流点である岐阜県可児市の今渡から愛知県犬山市の犬山城付近に至る約 13 km の部分は「日本ライン」と呼ばれている。

木曽川は、美濃太田盆地の西縁に連なり、岐阜・愛知県境をなす秩父中・古生層の尾張丘陵を侵食し、横断してつくる渓谷美と、木曽川に迫ってそびえる犬山城は、地理学者志賀重昂がドイツのライン川を連想されるとして、「誠に是れ一幅ラインの縮図」と褒め称えたことをきっかけに、「日本ライン」と通称されるようになった。

木曽川は、1927（昭和 2）年に毎日新聞の前身である東京日日新聞と大阪毎日新聞の主催による投票により、昭和の新時代を代表する勝景に選出され、その中から検討委員により日本八景の一つとして選定された。



■木曽川うかいとは？

鵜飼は、鵜舟に乗った鵜匠がウミウを訓練し、川魚を捕らせる古代漁法である。鵜飼漁をする人は鵜匠と呼び、鵜匠の船は鵜舟（うぶね）という。

木曽川鵜飼は最大三隻で漁を行い、1 人の鵜匠が操る鵜飼は最大 12 羽である。鵜の首に手縄（たなわ）をつけ、鵜匠の手縄さばきに促されて水中に潜り、鮎をはじめとする川魚などを捕らえる。鵜が魚を飲み込み水面に上がってくると、鵜匠は手縄を引き、鵜が捕らえた魚を吐き出させ、それを何度も繰り返すことで漁を行う。

犬山での鵜飼は 1659（万治 2）年に、犬山城主 3 代目の成瀬正親が故郷の足助から鵜匠を呼び寄せ、幕府の御料鵜飼として始めたという。その後約 150 年間鵜飼が推奨され、合わせて鵜飼町や鵜飼港もできた。しかし、犬山城主 6 代目の成瀬正典が隠居後、殺生禁令が出されることによって、鵜飼が中止となり、鵜匠が城下から追放された。1899（明治 32）年に、鵜飼健次郎の尽力により復活し、昭和 39 年からは観光目的に市営鵜飼となった。



■木曽川の舟運とは？

木曽川の舟運は、古代より豊富な木曽山木材の重要な搬出路として開発されてきた。

近世に入り、木曽川は、尾張藩にとって木曽・美濃と名古屋城下を結ぶ物資、特に木材の輸送路として大きな意味を持っていた。また、尾張藩主は美濃地域の主な運材要地、木曽山林を封ぜられることで、藩は木曽川の支配権を掌握した。尾張藩の木曽川支配は、主に林業政策の一環として扱われ、舟運をはじめ川並に関する諸事項は新たに設置した川並奉行（川を行き来する舟や荷物を取り締まる役職）の管下になった。川並奉行は沿岸の川番所に対して監督の役割もあった。

犬山は、木曽川を下る材木の中継、あるいは荷物の発着といった、湊としての機能を有しており、渡船場が3カ所ある。それは栗栖の渡し、内田の渡し、鵜飼屋の渡しである。栗栖の渡しは最も上流に位置しており、その付近は奇岩巨石が多いため、それらの奇岩巨石の間に船が往来する様子は佳景であったという。内田の渡しは犬山城の北東にあり、東山道の一部であったため、利用者が最も多かった。鵜飼の渡しは犬山城の西側にあり、犬山湊筏を支配する神戸氏が筏乗りの人々の往来のために設け、整備したものである。鵜飼の渡し及び犬山川番所や筏の支配を担当する神戸家の屋敷がある鵜飼町付近も犬山湊の中心部でもあった。犬山の渡船場は1925（大正14）年に犬山橋が完成するまで、重要な交通機関として役割を果たしていた。

1886（明治19）年に、木曽川と堀川とを舟で結ぶ愛船株式会社が設立された。新木津用水の回収に伴い、木曽川から木津用水・新木津用水・庄内川・黒川・堀川を結んだ約23キロメートルの水路を利用し、名古屋に木材、薪炭、米、麦、肥料、丸石、天然水等の品物を運送していた。



■木曽川の治水・利水とは？

近世の初頭には木曽川はまだ堤防によって本流が固定しておらず、濃尾平野扇状地の要に位置する犬山を出ると流路は枝分かれして尾張地方へ分流支川が流れ込み、洪水被害をもたらしていた。

1609（慶長14）年、徳川家康の命により犬山から河口まで木曽川の流れを固定し、木曽川の分流支川をしめ切って尾張側への洪水流入を防ぐ木曽川「御囲堤」の築堤工事が進められた。この御囲堤の整備により木曽川支川からの農業用水の取水が不可能になったため、その確保のため新たに宮田用水が整備され、尾張平野の農地の灌漑用水の源としての役割を果たすことになった。そして、1957年（昭和32）年国営濃尾用水事業が開始され、1967年（昭和42）年犬山頭首工により濃尾用水として宮田用水、木津用水、羽島用水の取水口がこの地に設置され、用水の安定供給が図られた。



一方、宮田用水の受益を受けられない犬山や小牧東部の農業用水確保のため、1633年に我が国最大級の入鹿池が農業灌漑用水のため池として整備されるとともに、ここを水源とする五条川沿岸地域では新田開発がすすめられた。1934年（昭和9）年には入鹿池の余剰水の放水路として新郷瀬川が開削され、犬山城の外堀としての枠割を果たす郷瀬川に合流された。

なお、1914年（大正3）年には、名古屋市水道事業として木曽川に犬山取水場が設置され、名古屋市水道の水源として現在も継続利用されている。また、1970年（昭和45）年から愛知県営水道事業の犬山浄水場の建設が始まり、1974年（昭和49）からは県下市町村に給水開始された。

このように、木曽川は名古屋大都市圏の水資源の根幹であり、犬山市はその要としての役割を果たしている。

◆キャッチフレーズのためのキーワード（服部部会長より）

城まち・川まち
しろまち・かわまち
城町・川街
城と水のまち
城と河のまち
城トピア・水トピア
城下町・水都
水のみなもと・城のあしもと
古都・水都
古城建つ水都
古城映る大河
白き城、青き水
美しく青き犬山
白と青の犬山（白は白帝・しろ、青は水・川を表す）
＊ちなみに、indigo も青
ラインパーク・キャッスルウォーク
日本ライン・ルネサンス
遊園ルネサンス
まち歩き・みず遊び
まちとみずの遊園
まちとみずを遊ぶ
なつかしいまち・おいしいみず

出典：第6回専門部会資料（資料1）

★犬山らしさについて

※第6回専門部会資料（資料1）より抜粋

（1）自然的特徴

◆犬山の地理的な特性が生み出したもの、こと

- ①木曽川が濃尾平野に流れ出るまさに扇の頂に位置し扇状地の始まりになるところという特徴的な地形の中にある。
- ②荻生徂徠や志賀重昂といった歴史上の人物が白帝城、日本ラインと名付けるような風光明媚な資源があった。
- ③かつて木曽川が物流の大動脈として使われていたとき、犬山には湊があり、物資の集散地として発展した経緯がある。
- ④この地が天然の要害ということで織田氏が城下町を形成。
- ⑤木曽川を資源に尾張名古屋の奥座敷として観光地を形成してきた
- ⑥吉田初三郎が描いた名勝日本ライン
- ⑦県内では犬山だけ
- ⑧市内の多くの校歌にも木曽川に関する詞が歌われており、暮らす人たちにも潜在的な資源として認識されている。

◆犬山で取られた水が地域全体を潤している

- ①愛知用水
- ②県営上水道（取水）
- ③名古屋上水道（取水）
- ④入鹿池（国内最大級の農業ため池、世界かんがい施設遺産）
- ⑤多くの農業用水



◆水の豊富さ、良さによってはぐくまれた産物

- ①守口大根
- ②桃
- ③地酒、ビール
- ④鮎
- ⑤豆腐
- ⑥こんにゃく
- ⑦ワカサギ



(2) 歴史的、文化的特徴

◆木曽川を資源とする文化

- ①1300年受け継がれている伝統漁法の鵜飼
- ②遊覧船、川下り
- ③川祭



◆城下町

- ①その時々々の流行り物を楽しむことができる空間



◆価値づけされたもの

- ①国宝犬山城天守（文化庁）
- ②国宝茶室如庵（文化庁）
- ③ユネスコ無形文化遺産犬山祭（ユネスコ）
- ④旧正伝院書院など市内各所にある重要文化財（文化庁）
- ⑤重要文化財11棟を含む明治建築が集まる博物館明治村（文化庁）
- ⑥磯部家住宅など市内各所にある登録有形文化財建造物（文化庁）
- ⑦名勝木曽川（文化庁）
- ⑧飛騨木曽川国定公園（環境省）
- ⑨世界かんがい施設遺産入鹿池（国際かんがい排水委員会）
- ⑩平成の名水百選八曽ノ滝（環境省）
- ⑪史跡青塚古墳（文化庁）
- ⑫史跡東之宮古墳（文化庁）
- ⑬史跡犬山城跡（文化庁）



◆工芸

- ①犬山焼
- ②からくり人形



◆風習

- ①石上げ祭



◆学術的価値が高いもの

- ①博物館明治村
- ②日本モンキーセンター
- ③野外民族博物館リトルワールド

◆街道

- ①上街道、稲置街道など

犬山には城、城下町が主要な観光資源として存在しているが、原点回帰をすると「水」がもたらす「水景」が大きくすべてをつなぐものとして浮かび上がるのではないかと。

観光戦略を策定している自治体におけるキャッチコピーの例

(全国的に有名な観光地を有する自治体、城下町を有する自治体、大きな河川が流れる自治体を抽出)

番号	都市名	策定（改定）年	キャッチコピー
1	函館市	H26.4	人・まち・文化の宝宝箱 新・国際観光都市 函館へ
2	小樽市	H29.4	ホンモノの小樽とふれあう ー観光客と市民がふれあい、新しい発見があり、また来たいと思える街ー
3	日光市	H26.3 (H30.3)	Worldクラスの観光資源、Worldクラスのおもてなし、Worldクラスの満足感 「世界の日光を体験しよう！」 Experience the world of Nikko!
4	鎌倉市	H28.3	鎌倉の持つ様々な魅力や価値が世界に誇る貴重な財産であることを認識し、 観光に携わるあらゆる主体が連携・協力し、 誰もが「住んでよかった、訪れてよかった」と思える 成熟した観光都市 を目指します。
5	熱海市	R3策定予定	変化しつづける 温泉観光地 熱海 ー多様な地域の資源・価値に立脚し、時代・価値観の変化に柔軟に対応する 満足度の高い滞在空間の提供ー
6	高山市 ^{※1}	R2.3	飛騨高山の風土と飛騨人の暮らしが生み出す本物 それが『飛騨高山ブランド』
7	下呂市	H27.3	下呂市を訪れるすべての人をおもてなしの心で迎える ホスピタリティあふれるまちづくり
8	伊勢市	H30.3	住む人と訪れる人がおかげさまの心を通じて交わるまち 常若の精神を未来へ受け継ぎ、若々しく瑞々しいまち
9	出雲市	H21.3	「神話の夢舞台・出雲」 世界を結ぶご縁都市、ご縁を大切に作る出雲 ～神話と歴史・文化の地から本物の豊かさを提供～
10	由布市	H28.3	人と暮らしが織りなす “懐かしき未来”の創造 ～“住んで良し、訪れて良し”、原点回帰のまちづくり～
11	金沢市	H28.3	四季折々、 ほんものの日本 を五感で発見できる街
12	富良野市	H31.3	持続性のある受入体制の強化 オールシーズン「滞在型」の国際観光地へ
13	姫路市	H29.3	観光を通して、 愛し愛されるまち 姫路
14	松江市 ^{※2}	H19.3	水の都松江・旅絵巻 ～「不昧好み」、「松江好み」を基調とした 水の都松江らしい質の高い文化観光体験の提供～
15	松本市	H30.4	「3 Gakudo・松本」の磨かれた観光資源が世界に広がり、何度も訪れたくなるまち
16	彦根市	H28.3	21世紀型城下町・彦根の創造
17	長野市	H29.4	「ながのファン」を増やす ことで、本市経済と、地域コミュニティの活性化を目指す
18	四万十市 ^{※3}	R2.3	地域の誇りが人を誘う、おもてなしの“環光”地
19	米沢市	H28.3	地域ブランドの向上とより選ばれる観光地・米沢を目指して
20	岐阜市	R2.4	「市民と描く」岐阜市未来ツーリズム ～ 岐阜の魅力を守り・岐阜の観光を育て・岐阜市民の誇りへ ～

※1 飛騨高山ブランド戦略（令和2年3月策定）

※2 松江市観光振興プログラム（平成19年3月策定）

※3 四万十市産業振興計画Ver.2（令和3年3月策定）の観光分野に記載

犬山市内の小中学校の校歌のテキストマイニング による犬山らしさの分析

2021.6.25 中部大学 服部敦

出現頻度の高い語句

・「流れ」が8回出現するなど、「木曾」「水」といった水に関わる言葉の出現頻度が最も高い・

・次いで、「城」「歴史」「古い」などの歴史に関わる言葉の出現頻度が高い。

・このほか、平野、山に関する言葉の出現頻度が高い。

＊「犬山」「中学校」「小学校」など、犬山市の学校の校歌に当然に出現する言葉は抽出しないように設定。

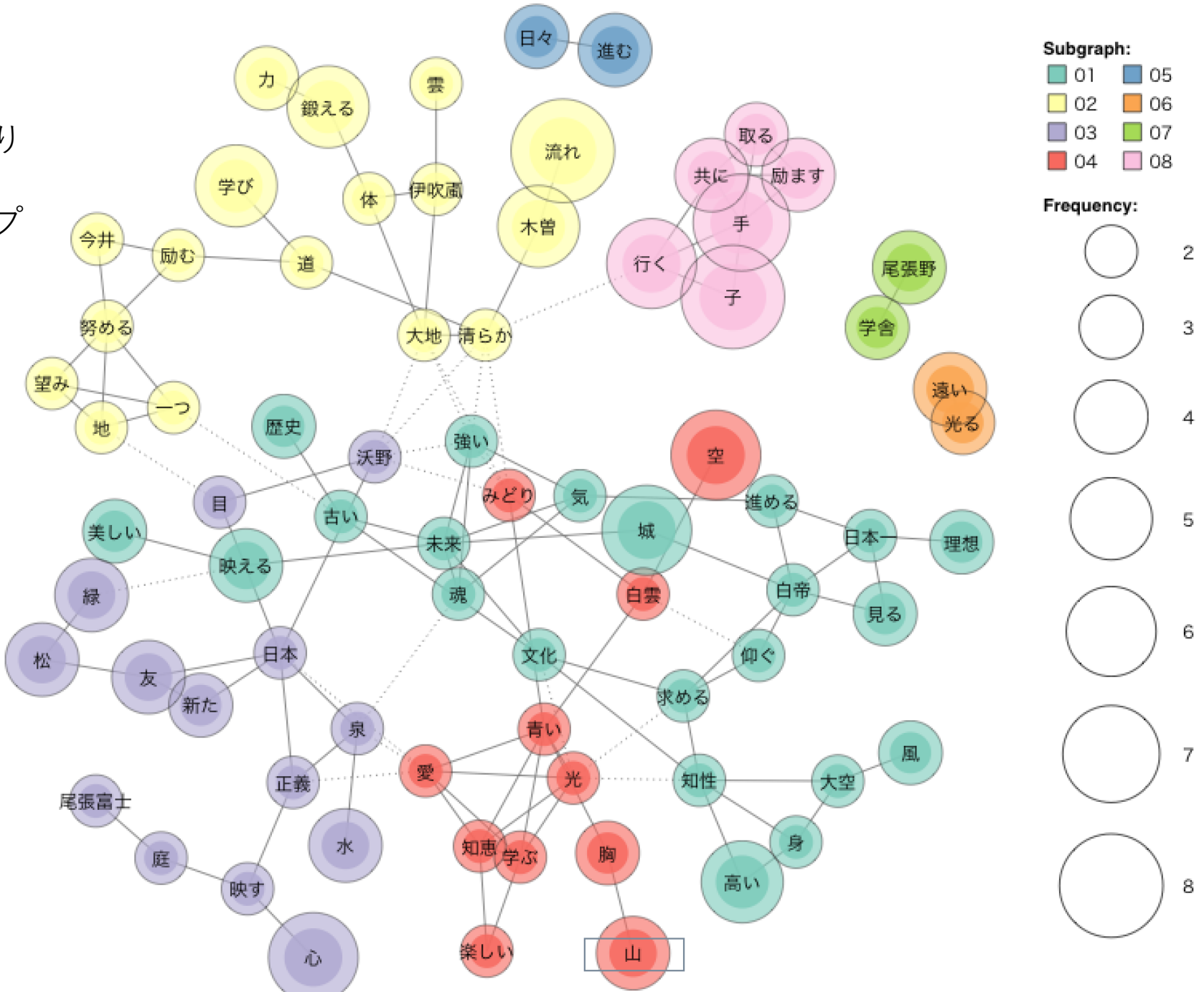
1	子	名詞C	8	
2	流れ	名詞	8	
3	手	名詞C	7	
4	生きる	動詞	7	
5	空	名詞C	6	
6	行く	動詞	6	
7	城	名詞C	6	
8	心	名詞C	6	
9	学び	名詞	5	
10	高い	形容詞	5	
11	清い	形容詞	5	
12	鍛える	動詞	5	
13	豊か	形容動詞	5	
14	木曾	地名	5	
15	映える	動詞	4	
16	遠い	形容詞	4	
17	歌う	動詞	4	
18	共に	副詞	4	
19	山	名詞C	4	
20	松	名詞C	4	
21	進む	動詞	4	
22	水	名詞C	4	
23	尾張野	タグ	4	
24	命	名詞C	4	
25	友	名詞C	4	
26	緑	名詞C	4	
27	励ます	動詞	4	
28	学舎	名詞	3	
29	丘	名詞C	3	
30	胸	名詞C	3	
31	見る	動詞	3	
32	光る	動詞	3	
33	広い	形容詞	3	
34	姿	名詞C	3	
35	取る	動詞	3	
36	新た	形容動詞	3	
37	東部中	組織名	3	
38	日々	副詞可能	3	
39	尾張	地名	3	
40	美しい	形容詞	3	
41	風	名詞C	3	
42	平和	形容動詞	3	
43	理想	名詞	3	

44	力	名詞C	3	
45	歴史	名詞	3	
46	みどり	地名	2	
47	愛	名詞C	2	
48	伊吹風	タグ	2	
49	一つ	名詞	2	
50	雲	名詞C	2	
51	映す	動詞	2	
52	学ぶ	動詞	2	
53	楽しい	形容詞	2	
54	気	名詞C	2	
55	求める	動詞	2	
56	強い	形容詞	2	
57	仰ぐ	動詞	2	
58	古い	形容詞	2	
59	光	名詞C	2	
60	今井	人名	2	
61	魂	名詞C	2	
62	身	名詞C	2	
63	進める	動詞	2	
64	正義	名詞	2	
65	清らか	形容動詞	2	
66	青い	形容詞	2	
67	泉	名詞C	2	
68	体	名詞C	2	
69	大空	名詞	2	
70	大地	名詞	2	
71	知恵	名詞	2	
72	知性	名詞	2	
73	地	名詞C	2	
74	庭	名詞C	2	
75	努める	動詞	2	
76	道	名詞C	2	
77	日本	地名	2	
78	日本一	名詞	2	
79	白雲	名詞	2	
80	白帝	タグ	2	
81	尾張富士	固有名詞	2	
82	文化	名詞	2	
83	望み	名詞	2	
84	未来	名詞	2	
85	目	名詞C	2	
86	沃野	名詞	2	

出現頻度の高い言葉の関連

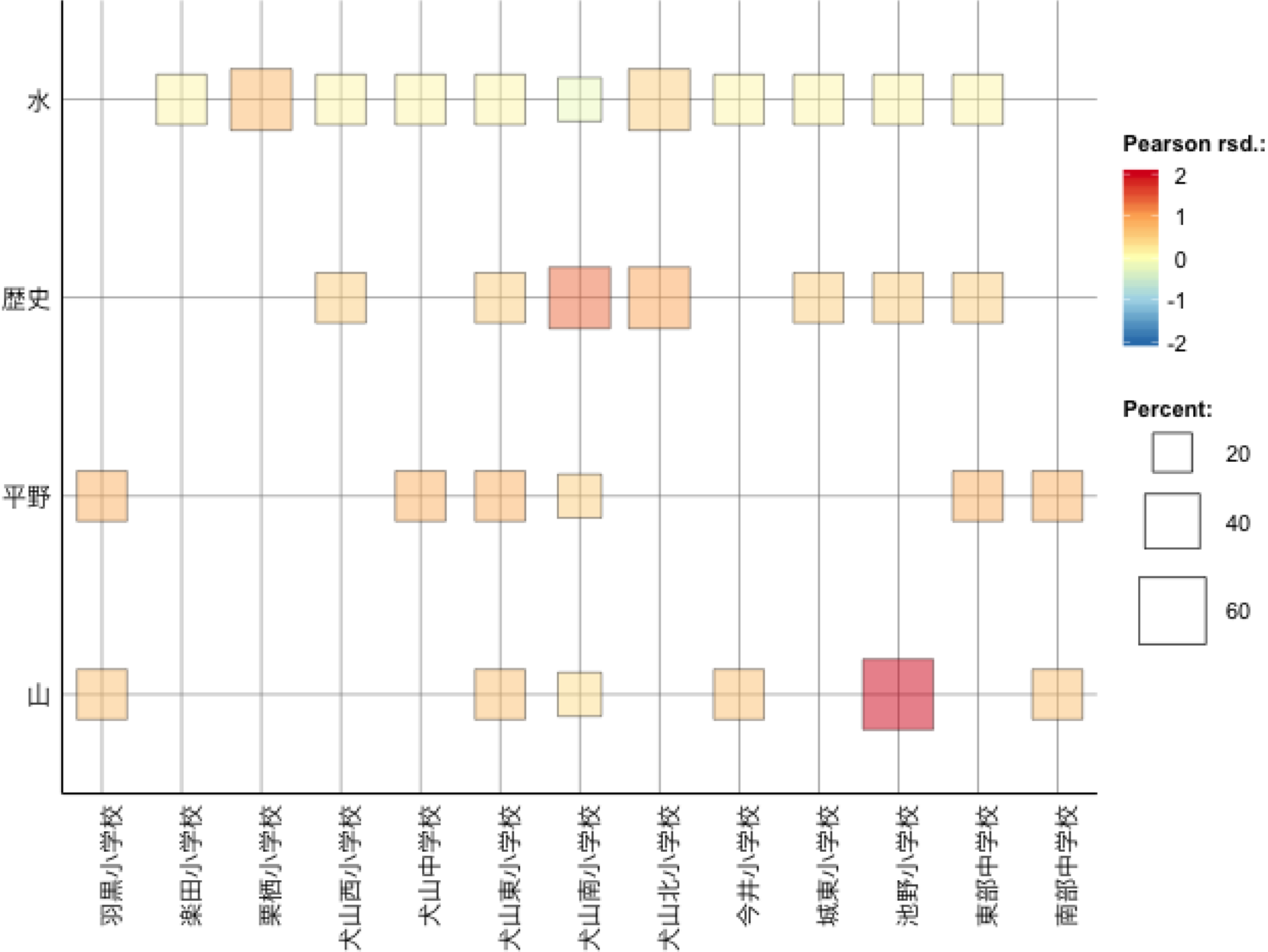
・ 次のグループが大きな固まりを形成している。

- ①「流れ」に関連するグループ
- ②「城」に関連するグループ



4つの言葉グループの出現頻度

- ・「流れ」「木曾」「水」などの言葉を「水グループ」と設定するなど、「水」「歴史」「平野」「山」の4つの言葉グループを設定。
- ・水グループは、羽黒小学校以外のすべての学校で出現。
- ・次いで、歴史グループが出現する学校が多い。



- ・水グループは歌詞の1番から4番までどこでも出現する
- ・歴史も歌詞の1番から3番で出現するが、3番のことが多い。
- ・平野は1番で出現することが多い。

